

安心の設計

介護、医療、子育て、老後に関する意見・疑問をお寄せ下さい
メールansin@yomiuri.com
ファクス03・3217・9957

認知症 いろいろ

4

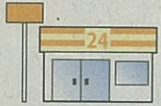
外出サポート地域で声掛け

延べ1万7479人――。2019年に警察に届け出があった認知症(疑いを含む)の行方不明者数です。路上で車にはねられたり、山中で倒れたりして、亡くなった人は460人にのぼります。家族にとっても非常に深刻な問題です。

ただ、「認知症になっても外に出かけたいと思う気持ちは変わりませんし、人によって症状や進行は様々。地域や機器のサポートがあれば、外出を諦めずに済む人もたくさんいます」(厚生労働省の担当者)。心配だからといって、無理やり家に閉じ込めることで、かえって症状が悪化してしまうこともあります。認知症の人をいかに見守る

◆認知症の人の見守りに関する取り組みの例

- ▶ 認知症サポーターや「認知症にやさしいお店」などによる声かけ
- ▶ 警察や町内会などが連携した捜索訓練の実施
- ▶ 介護保険適用のレンタル機器(玄関通過時に家族に通知など)
- ▶ 自治体によるGPS端末貸し出しやQRコードシールの配布
- ▶ 自治体が散歩などへの付き添いヘルパーを派遣



保険適用の「見守り」機器も

際、積極的に声をかけるなどの活動を行っています。警察や自治体、町内会、商店や宅配業者などが連携し、行方不明者を捜索する訓練を行う自治体も増えています。行方不明者を捜すだけではありません。例えば、京都市左京区では、バスや電車などの交通機関や地域住民が参加し、「降りる駅が分からなくなってしまう」など、困っているような人に声をかけ、外出をサポートするという視点での訓練を地域包括支援センターを中心に実施してきました。家族らが個人で導入できる機器もあります。玄関を通るとセンサーが反応し、家族にメールで通知したり、ブザー

散歩・話し相手……

保険対象外で「付き添い」

認知症の人が外出する際、通院や買い物など、生活に必要な外出の付き添いには、介護保険が利用できる。さらに、散歩など保険給付の対象にならない外出を支援している自治体もある。

東京都武蔵野市は、独自の研修を受けた介護職員を認知症の人の自宅に派遣し、一緒に散歩をしたり、話し相手になったりする事業を実施している。週に4時間まで、1時間500円で利用できる。

大阪府茨木市でも、介護職員らが散歩などに付き添ってくれる事業で支援している。利用は月10時間以内で、1時間500円という。

が鳴ったりといったものです。介護保険が適用され、原則1割の自己負担で利用でき、月額2000円程度におさまるサービスもあります。靴に装着できるGPS(全球測位システム)端末を貸し出ししたり、服やカバンに貼り付けられ、発見者が連絡先を読み取れるQRコードシールなどを配布したりしている

市区町村もあります。「行方不明になるかもしれない」「道に迷ったらどうしよう」といった不安がある場合、まずはケアマネジャーや市区町村の介護担当部署に相談してみましょう。(田中ひろみ)

*次回は9月8日に掲載予定です。